

入れ歯とダイヤ



“家にはダイヤモンドはあるのか”退職が間近になったある日、主人が言った。“まさか、あるわけないでしょう”という言葉飲み込む口の中には、もうすでにダイヤの指輪の代わりに総入れ歯が完成しつつあったのである。

三十数年をともに生きた妻に、退職金で指輪を買ってやりたいという気持ちは、うれしかったが、それよりも上等の入れ歯の方が私にはもっとありがたかった。

そんな時に思いがけないご縁で、いい歯科医と巡り合ったのは幸運であった。完成した入れ歯は最新の技術と材料で作られていて、粗末な歯を持ってこそ知った驚きと喜びである。今まで行きあたりばったりの治療をしていたことへの深い反省でもあった。

軽い合金でできた台はごく薄いメッシュ(網)になっていて温度も味も感じるから、朝起きて飲んだコーヒーは上あごに熱く、その上脳を軽く刺激する快さ。歯はセラミック製で切れがいい。最も苦手な厚切りのたくあんにおかきなど、口を大きく動かし、音を立てて食べる快感を改めて知る。

もはや私の歯は、取り外し自在な本物の歯である。また、“若くなった”と言われることは、どんなほめ言葉よりもうれしく、生きる希望がわいてくる。

歯は80歳で20本残っているのが理想とか。でもいいのよ、人工の歯で私は何の不自出もないのだから。入れ歯に乾杯！そして先生にも。



トルテイッシ

お問い合わせは